

（用語解説）

弥生時代（やよいじだい）約2,500年前～約1,800年前
稲づくりの技術が伝わり、水稻農耕による食糧生産をおこなう定住的な集落がつけられるようになった時代。石器のほか、青銅器や鉄器も使われた。

古墳時代（こふんじだい）約1,800年前～約1,400年前
地域の王やそれをまとめる大王が古墳とよばれる大きな墓をつくった時代。大王や王は、自分の立場や権力を古墳の大きさや形で表したとされる。中央集権的な国家の成立を準備した時代。

掘立柱建物（ほったてばしらたてももの）

地面に掘った穴に柱を立ててつくった建物。縄文時代からあるが、古墳時代では竪穴建物もまだ一般的に見られる。柱穴の規則的な配置によって存在がわかる。

土坑墓（どこうぼ）

地面に掘られた穴を一般的に土坑とよぶ。土坑墓は、そのような地面の穴に遺体を埋葬したお墓のこと。

弥生土器（やよいどぎ）

弥生時代につくられた素焼きの土器。野焼きによって600～700℃くらいで焼かれる。時期によって、形や文様に変化が見られ、それを指標に弥生時代を前期・中期・後期の3時期に区分するのが一般的。

土師器（はじき）

弥生土器の系譜をひく、古墳時代から平安時代につくられた軟質素焼きの土器。技術的には弥生土器と大きく変わらないが、胎土はより精良になる傾向がある。

須恵器（すえき）

あな窯を用いて1,200℃以上の温度で焼かれた硬質の土器。酸素の供給をおさえた還元炎焼成による灰色の色調を特徴とする。朝鮮半島の陶質土器の系譜をひき、5世紀前半に渡来系の人々によって技術が伝えられた。時期による形の変化が明確で、時間のものさしとなる。

風字硯（ふうじけん）

平面形が風という字の形に似る硯で、中国唐時代にはじまる。大園遺跡で出土したものは、須恵質で、日本製。

埴輪（はにわ）

古墳に立て並べられた土製品。円筒埴輪と形象埴輪がある。最初にあらわれたのは土管状の円筒埴輪で、その後、家形埴輪・器材埴輪・船形埴輪・動物埴輪・人物埴輪などが現れる。

サヌカイト

安山岩の一種。香川県金山や大阪・奈良府県境の二上山が主な産地である。固い均質な石で、打製石器の製作に適し、黒曜石と並ぶ代表的な石器の素材。

大園古墳（おおぞのこふん）

西取石8丁目に所在する墳丘全長約47mの前方後円墳。一般的なものより前方部が小さく、帆立貝型とも呼ばれる。昭和48年の発見時点で墳丘上部はすでに削平されていたが、墳丘基底部と周濠が残り、周濠から円筒埴輪、形象埴輪（人物・馬形・鶏形・家形・草摺形・盾形・韌形・蓋形など）、須恵器が出土した。5世紀末から6世紀初頭の築造とされる。

おおぞのいせき

大園遺跡現地公開資料

高石市教育委員会

はじめに

大園遺跡は、高石市から和泉市・泉大津市にまたがる東西1.3km、南北1.2kmの広い遺跡です。

昭和42年の第二阪和国道建設にともなう分布調査で知られて以来、約2万年前の旧石器時代から近世にいたるまでの遺跡であることが分かってきました。特に、古墳時代中期から後期の建物が多く発見され、集落研究の良好な資料として注目されてきました。

このたび、高石市綾園6丁目14－19で宅地開発が計画され、高石市教育委員会では、株式会社東昌ホールディングスの協力を得て、平成27年5月12日から335㎡を発掘調査しました。

なお、発掘調査にあたっては、大阪府教育委員会の指導・協力を得ました。

調査の成果

（遺構）

地表下0.6～1mほど掘り下げると、柱穴・土坑・溝などの遺構が見つかりました。

主な遺構としては、弥生時代前期（約2,300年前）の土器群や土坑、弥生時代後期（約1,800年前）の柱穴・土坑墓、古墳時代中期（約1,500年前）の掘立柱建物・溝などがあります。

大園遺跡で、弥生時代前期の遺構が確認されたのは初めてのことです。

（遺物）

弥生時代前期では、前期末の壺・甕・鉢・蓋などの土器とサヌカイト製の石の矢じり・石のキリ、緑色片岩製の石包丁などが出土しています。

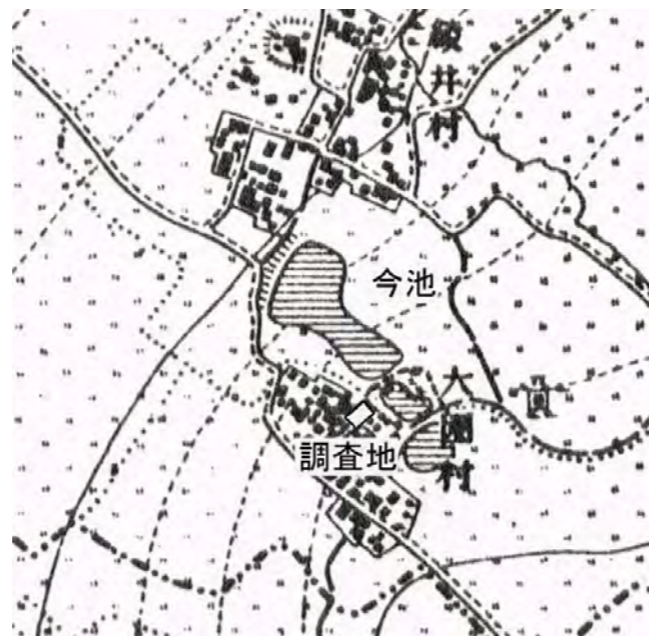
弥生時代中期・後期の遺物は、壺・甕・高坏・製塩土器などです。

古墳時代の遺物としては、土師器・須恵器・埴輪・イイダコ壺・製塩土器などが見られます。注目されるのは、古墳時代中期の、保存状態の良い円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、鶏形・盾形などの形象埴輪がたくさん含まれていることで、近くに古墳があったことを物語っています。

その他、飛鳥時代・奈良時代の土師器・須恵器や陶硯（風字硯）なども出土しています。



今回の発掘調査地



明治18年に測量した地形図上の調査地



調査区の全景(南から北方向)



石の矢じり(弥生時代)

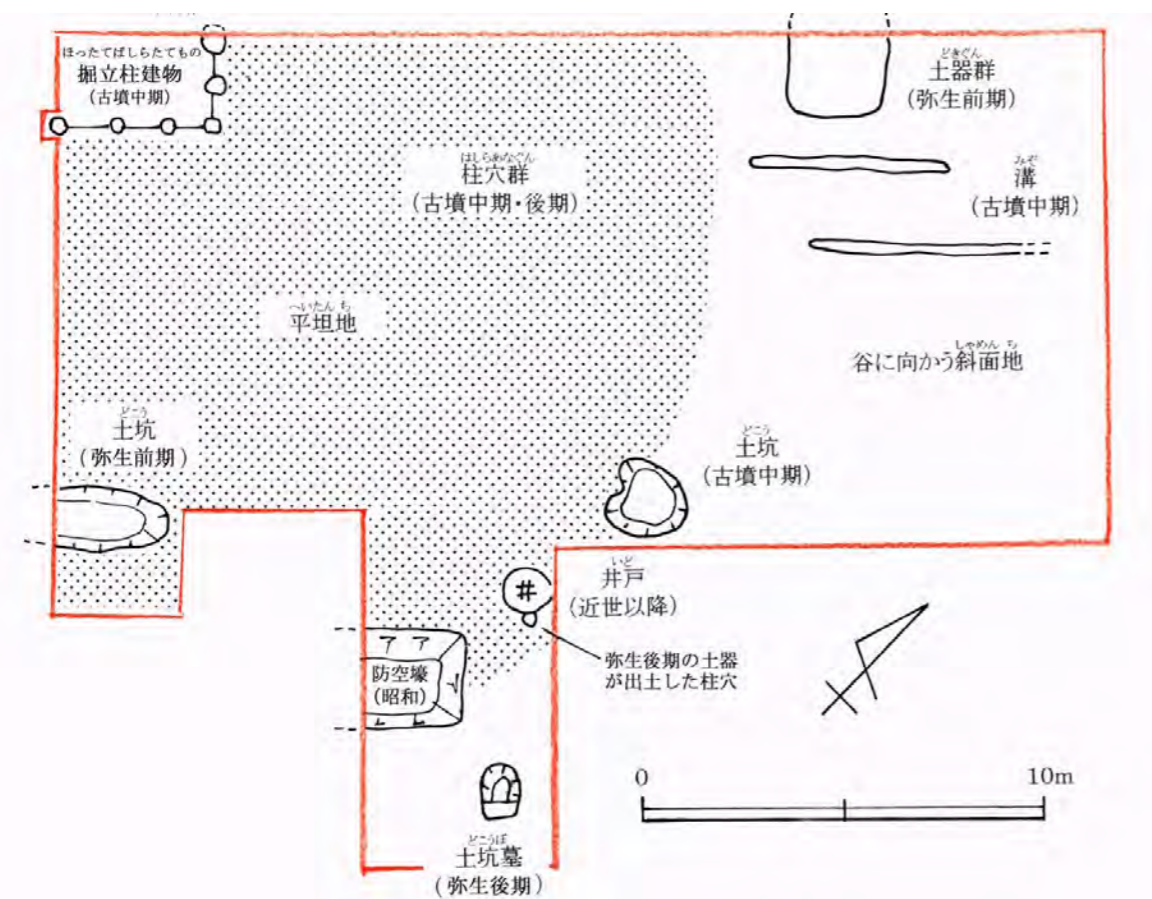
(左) 弥生時代前期土器群
(右) 土器群出土弥生土器



盾形埴輪(古墳時代中期)



鶏形埴輪(雌?古墳時代中期)



確認された遺構(模式図)



横ハケの円筒埴輪(古墳時代中期)



須恵器の杯蓋(古墳時代中期)



須恵器イダコ壺(古墳時代後期)



風字硯(奈良時代)